

令和7年（2025）度アサンプション国際中学校高等学校 学校評価報告書

I 理念

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」、また5つの基本理念「LIFE TRUTH FREEDOM GOODNESS ONENESS」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す
～「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着

II 最重要課題

1. アサンプション21世紀型教育をさらに定着し充実するため、学校全体・教員個人の教育力の向上
2. 学校改革に見合った施設設備の充実入学者の確保
3. 中学校50名以上、高等学校130名を目標とした広報戦略の強化

【学校評価アンケートの結果と分析】

年度末の2026年1月に、Classiを利用したWebアンケート方式で実施した。

（保護者・生徒）

肯定的評価が高く9割を超えるのは、「学校行事を通して多様な体験ができています」さらに、「学校の理念が伝えられている」「学校生活の中で、生徒に進路や生き方について考える機会が与えられている」「進路および学習指導に関する説明会・懇談・面接が適宜行われている」「修学旅行・学習旅行など校外活動がお子様の成長に寄与する」「タイミングよく情報提供されている」「お子様が家庭で学校の話をする人が多い」「先生や職員は、ふさわしい服装やきちんとした行動・態度がとれている」は8割を超える高い肯定的評価を得ることができた。これらのことから「理念」「学校行事」「情報提供」といった項目で満足度が高いといえる。

一方肯定的評価が低く5割を切るのは、「宿題の量や内容は適切である」「希望する大学受験に対応できている」の2項目であった。「希望する大学受験に対応できている」については、「わからない」が約35%を占めている。

特に「進路についての説明会・考える機会の提供」はここ数年進路指導部が力を入れてきたところであり、2025年度も「トモノカイ」の現役の大学生と一緒に自習室の運営や進路HRを行ってきたことが、評価されたものと思われる。

肯定的評価が5割を切る項目はなかったが、「悩みや困ったことがあったとき、先生（担任以外を含めて）に相談することができる」（約50%）、「先生は、学校で発生する問題を見逃さず対応してくれる」（約55%）、「希望する大学受験に対応できている」（約50%）の3項目は、評価が高いとはいえない。特に、「悩みや困ったことがあったとき、先生（担任以外を含めて）に相談することができる」、「先生は、学校で発生する問題を見逃さず対応してくれる」の2項目は生徒が安心して学校生活を送ることができるための必須項目であり、改善する必要がある。また、今年度も「宿題の量や内容」に関しての肯定的な項目について、保護者の評価（約50%）が低く、生徒の評価（約75%）が高かった。生徒の希望進路実現のためにも、「宿題の量や内容」について、学習効果と生徒の負担とのバランスを考えながら、より適切な宿題の内容、量に関して再考しなければならない。

また、保護者の方々から「適切なタブレット端末の利用方法」についてのご意見もいただいた。ICT機器は学習を支える大切なツールである一方、休み時間のそれに没頭するあまり、友人とのコミュニケーションが不足する傾向にある。タブレットのより適切な活用方法についても検討を進めなければならない。

（教員）

「学校の教育理念・方針を十分に周知している」「学校で発生する問題を見逃さず対応している」「保護者との連絡を大切にしている」の3項目は特に評価が高かった。「学校で発生する問題を見逃さず対応している」の項目については、教員の肯定的評価（約78%）は高かったが生徒の肯定的評価（約55%）が低かった。生徒の肯定的評価が上がるよう改善する必要がある。

全体的に保護者アンケート・生徒アンケートともに、昨年度より進路に関する取り組みに関する項目で肯定的な意見が増えた。昨年度から力を注いできた「進路への働きかけ」に対する取組が評価されているといえる。とはいえ、生徒の第一志望進路実現 100%の実現を目指す本学院にとって、100%を達成するためには、より一層の努力が必要であろう。

Ⅲ 本年度最重要課題に対する施策、及び自己評価

最重要 課題	今年度の 重点目標 (Plan)	具体的な取組 計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
1 教育力の 向上	(1) 21世紀型教育の定着と充実に向けての教育力向上	1)英語イマージョン教育の充実	ア)イマージョン委員会の充実 イ)オリジナル教材の製作	ア)結果：○ イマージョン委員会は定期的に会議を開催、ネイティブ教員同士の連絡・情報共有・行事へのスムーズな参加を行っている。来年度からは校長もアドバイザーとして参加予定 イ)結果：○ 高校理科・数学について、ネイティブ教員が中心に、オリジナル教材を制作している。今後も継続して内容を更新していく予定である。
		2)PBL教育の推進	ア)授業研修の充実	ア)結果：△ 新任教員の公開授業など授業に焦点化した研修を実施した。外部の研修機関とも契約し、延べ10名の教員が研修に参加をした。今後も外部研修会への参加教員を増やすことや、教科内での自主研修の実施などさらなる研修機会の拡大が望まれる。
		3)ICT教育の充実	ア)ICTを活用した授業の推進	ア)結果：○ 校内LANがつながりにくいという課題に対し、ICT委員会がフィルタリングのクラウド化を実施し、改善されつつある。一方プロジェクターなどの機器の耐用年数が過ぎ更新が必要に応じて取り替えた。 今年度からDXハイスクールに認定された。
		4)グローバル教育の充実	ア)国際交流プログラム・短期留学の充実 イ)語学検定など、資格取得の推進	ア)結果：○ カナダへのターム留学、フランス・ニュージーランドのターム留学の希望者も増えた。また、短期のコリブリ・フランス研修も生徒に人気であった。フィリピン研修も2023年度より再開し、男女共学校であるイロイロ校へと新たに行先を変更した。 大阪万博を利用して様々な国際行事にも参加した。 イ)結果：○ 英語検定は中学生全校実施を、また外部業者による英検対策講座の実施など、資格取得を推進している。 また校内で、TOEFL、フランス語検定、DELFDALF、硬筆・毛筆検定、漢字検定、ニュース検定、韓国語検定などの受験を積極的に勧め、資格取得者

		5)進路実績の向上 6)教員個人の教育力向上	ウ)海外進学を意識したイベントの充実と実績 ア)関西学院大学との教育連携強化、指定校推薦枠を利用できる生徒の増加 イ)受験による進学実績の向上 ウ)「個々の能力にあった教育」 ア)教員対象授業研修の実施 イ)若手教員向けの教員研修の充実	を増やしている。また、自習室でも英検対策講座などを開講している。 ウ)結果：○ 高校生向けに、国際交流センターが主催し、定期的に海外進学・留学説明会フェアを保護者対象にも実施した。海外大学進学に興味を持つ生徒が増えた。進学4名 ア)結果：○ 指定校推薦利用者は昨年に続き40%を維持できた。連携協定校の関西学院とは、推薦進学者は18名となった。 イ)結果：○ 進路指導部は都度ガイダンスを実施し、こまめに生徒に情報提供を行ってきた。また学年会もトモノカイの大学生と手を組み、生徒に働きかけを行ってきた。 進路実績としては今年度も指定校推薦・総合選抜を効果的に活用し4割が関関同立以上、6割が有名私大に進学した。一般入試でも上智大・関学大など有名私大への合格を果たし、更に国公立合格者は6名となりスーパーリアコース一期生が健闘した、海外大学進学者も4名と飛躍した。 ウ)結果：○ 生徒の希望に沿った進路指導を、担任・学年団を中心として実施してきた。また進路指導部は大学の情報収集に努め、生徒及び担任に情報提供を行った。結果として生徒は文系・理系・海外大学など自分が希望する幅広い進路に進学している。 ア)結果：△ 新任教員の授業公開などを実施した外部研修の参加などを積極的に促し個々が自主的にとりくむ研修を勧めている。 イ)結果：○ 中高連の部会が実施する生徒指導・人権教育の外部研修には参加してもらい、初任者研修も実施した。
	(1) 学校改革に見合った組織と施設設備の充実	ア)中高男子サッカー部・高校男子バスケットボール部の長期計画	ア)中高男子サッカー部・高校男子バスケットボール部についての長期計画を検討する	ア)結果：△ サッカー部においては中学校で部員確保に苦戦している。一方で、高等学校は一定部員を確保できている。26年度入試から新たに男子バスケットボール部も準強化クラブに制定し6名の部員が入部し一定の成果を収めた。

2 施設設備の充実		イ)教室の整備 ウ)環境の整備と充実 エ)小学校との連携	イ)クラス数増に見合った教室の整備 ウ)部室、更衣室、ICT環境等の整備と充実を行う エ)様々な面で、併設小学校との情報共有、連携を行う	今後は、中期的な展望に立って計画を立てていくべきである。 イ)結果：△ 中学校2クラス、高校4クラスに対応できる普通教室・設備を整備してきたが、2025年度は整った環境が提供できた状況である。また設備（エアコン・プロジェクター・黒板）の更新が課題である。 ウ)結果：△ 近年の温暖化による気温上昇に対し第二体育館・同更衣室の暑さ対策が急務である。2023年度は体育館更衣室の断熱化を行ったが、冷房化には電源不足の課題があり大規模な工事が必要である。第二体育館も見積もりをとり施設設備の優先課題とし、2026年度実現に向けて準備している。 その他調理室・PC教室機器の更新など計画的な設備更新が必要である。 エ)結果：○ 中学校・高等学校の校長が小学校校長を兼ねる形で情報共有・連携を目指し、一定の成果はあったと思われる。教員の授業提供の連携も盛んになった。また、生徒間同士（海外のアサンプションの研修生も含め）も連携し合う機会が増えてきている。
3 入学者の確保・広報戦略の強化	(1) 中学校50名 高等学校130名 を目標とした広報戦略の強化	1)Webページによる情報発信力の強化 2)説明会の目的を明確化と内容の充実	ア)紙媒体によるイベント告知からWebページへ誘導する流れを確立する。 イ)Instagramによる様々な学校情報の発信 ウ)広報戦略会議の小・中高連携 ア)「生徒を見せる」企画の立案	ア)結果：○ イベント毎にチラシを作成し、塾・公立中へ配布し、知名度向上を図ったイベントの参加数も増えて一定の成果を収めた。 イ)結果：○ 学校ブログのこまめな更新や、学校のInstagramによる発信、パンフレットと連動したWebの更新など、ネット上での情報発信の充実を目指した ウ)結果：○ 併設小児童保護者だけを対象としたオープンスクールを5月に企画した。併設小学校からの入学者は26名であった。小学校の保護者会で入試説明会を実施していく機会を持つ。 ア)結果：○ 在校生による学校説明、生徒による歓迎パフォーマンス、お手伝い生徒の起用、公開授業の実施などいずれも参加者に高評価を得た。

		3)内部満足度の向上	イ)イベント回数の増加	イ)結果：○ 月に1回を目安に広報イベントを企画し、10月以降は小規模なイブニング説明会も実施し、総参加者数は昨年度より増加した。
		4)入試制度の改善	ア)修学旅行・生徒会行事の活性化	ア)結果：○ 体育祭・合唱コンクールを中高生が一堂に会し学校行事を実施した。チャリティ・デーでも模擬店を初め色々な取り組みが自主性を持ってできている。宿泊行事も学院の強みを生かし、高校はポーランド、中学校はベトナムに行き、世界を見る・知る経験を行う。 留学関係もターム留学、2週間の研修だけでなく、個人留学のニーズも増えている。
			ア)中学入試結果	ア)結果：○ 入試制度改善としては、教科型・英語型の計3回の受験チャンスとシンプルな制度とした。受験者数は昨年度から10名減の41名となったが、入学者は昨年度より5名増の52名となった
			イ)高校入試結果	イ)結果：○ 設備面の制約から2024年度は4クラス130名を目標に募集活動を行い、受験者総数は151名（併設中除く）となった。そして、入学者は併設中からの進学者を含め140名となり目標を達成できた。次年度も近隣中学校との関わりと説明会参加者の出身中学校への丁寧なフォローの試みを実践していきたい。

【学校関係者評価委員会での意見】

1. 情報発信について

少人数教育の魅力、英語教育（イマージョン教育）、多彩な国際交流、海外大学進学など、本校ならではの特色を、インスタグラムなどのSNSを積極的に活用し、広報活動を展開してほしいという意見をいただいた。

今後も、アサンプション国際中高等学校が取り組もうとしている生徒たちの非認知能力の向上に関わる、教育活動の進化と、本校の強みである英語教育・国際理解教育をさらに推進することによって、生徒の第一志望進路実現につなげ、発信してそれが新たな募集につながるようにしていきたい。

2. 学びの進化について

習得してほしい英語力の指標として、高校2年生終了時までにはイングリッシュコースは実用英語検定試験1級または準1級合格、アカデミックコースは2級合格を目標としていると説明した。

また、現在の外国語教育、国際理解教育に加えて、海外企業との連携、インターンシップ、商品開発など社会とつながるより実践的な学びを充実させてはどうかという意見をいただいた。

現在の交流を中心とした海外研修に加えて、企業研修などのプログラムも開発していきたい。

3. まとめ

評価委員の方々からは本学院の教育方針に対して、肯定的な意見が多かった。ただその良さが、外部に十分伝わっておらず、少し残念だという意見もあった。今後は、SNS をより積極的に活用をして本校の特徴を発信し、多くの方々に理解をしていただき、入試広報にもつなげていきたい。